

アイスボーイ（冰花男孩）事件に関する中国ネット世論の形成

——新浪微博の分析を通じて——

楊 曄
松 野 良 一Forming China's Online Public Opinion on the "Ice Boy" Case :
Sina Weibo's AnalysisYang YE
Ryoichi MATSUNO

Abstract

A boy who lived in a poor area of China walked 4.5 km to school even on cold days. On a frigid day in 2018 winter, the boy had his hair and eyebrows whitened by frost when he reached the school. The teacher took the boy's picture and posted it to social media. In the blink of an eye, the boy was nicknamed "Ice Boy" and became famous online. This paper focuses on the "Ice Boy" case and analyzes what kind of online public opinion was formed, and how it was formed on Sina Weibo. The analysis clarifies the following four points. First, the Chinese Communist Party's official Weibo account, "@People's Daily," played an important role in disseminating information about the "Ice Boy" case. Second, the "Ice Boy" case was related to the Chinese government's education policy for poor areas. For this reason, @ People's Daily delivered repeated news about the incident, following which the government announced a series of education policies for poor areas. @ People's Daily took the initiative in forming public opinion by handling the case carefully. Third, the online debate expressed interest in and sympathy for "Ice Boy" while critically discussing the government policies. Fourth, @ People's Daily did not address topics that could lead to the government's criticism, such as the uncertainty in donation flows. In addition, @ People's Daily positively evaluated the "Ice Boy" case and led to the formation of online public opinion.

Key Words

Sina Weibo, "Ice Boy," online public opinion, @ People's Daily, Chinese government's education policy, initiative in forming public opinion

目 次

1. 問題の所在
2. 先行研究
3. 事件拡散経路における分析（研究1）
4. 「@人民日報」書き込みの内容分析（研究2）
5. アイスボーイ事件世論形成のプロセス（研究3）
6. 結論と全体的考察

第1章 問題の所在

1.1 研究背景・動機

1.1.1 中国におけるメディア環境の現状

情報通信技術 (ICT) が切り開いたインターネット時代においては、ソーシャルメディアをはじめとする新しいコミュニケーションツールが次々と登場し、普及している。このため、マスメディアだけでなく一般ユーザーも手軽に情報を発信することが可能になり、情報メディア環境は大きく変容している。

近年、諸々の改革・開放政策を進めてきた中国は、急成長を続けてきた。しかし、急速な経済発展を遂げた一方、社会階層分化が進み、経済格差の拡大、政治腐敗の蔓延、突発事件¹⁾の発生など、中国政府は多様な社会問題に対応せざるを得ない状況に置かれている。社会問題の深刻化に伴い、一般民衆の権利意識や意思表示のニーズが高まる中、安定した社会環境を作るためには、中国政府は一般民衆の意思表示を支える必要がある。また、社会的意識疎通や合意形成を促進するコミュニケーション空間が求められている (劉, 2016)。

このような状況下において中国のメディア環境も、絶えず変化し続けている。中国では、テレビ局や新聞などのマスメディアは中国共産党の管理下にある。1900年代当初から情報検閲制度が設けられ立法化が行われ、各種マスメディアに対して、政府による一定の管理が行われてきている (阿部遼太郎 2013)。2015年第13次五ヵ年計画において、インフラの建設や各種オンラインサービスの充実を推進し、情報伝達ツールの多様化と情報通信技術 (ICT) の発展によって、さらなる経済成長および国家発展を図るという「インターネット強国」政策が打ち出された後、ソーシャルメディアの利用者数と普及率が激増した。このため、マスメディアの一方向的な情報拡散の仕組み

から、インターネット時代には双方向のコミュニケーションが成り立つシステムへ変わり、政府側は統制の対象をマスメディアだけでなく、ソーシャルメディアまで含めた形へと、その範囲を拡大してきた。

また、中国においては、「新浪微博」, 「微信 (We Chat)」²⁾など、中国独自のソーシャルメディアツールが開発され、普及してきた。それらソーシャルメディアが、政府のメディア統制がある中で、マスメディアに代わって情報収集の主要なツールになりつつある (山田, 2012)。

1.1.2 新浪微博について

「新浪微博」(以下は「微博」と略称する) は中国新浪が運営するネットサービスであり、中国語圏最大のソーシャルメディアとして知られている。マイクロブログの略称であり、ツイッターを模倣して開発された理由から「中国版ツイッター」とも言われている。ユーザーは微博というツールを介して、PCやモバイル端末などからインターネットに短い文章や画像・動画の公開投稿ができる。また、他人の投稿を転載し、コメントするなどのコミュニケーションができるサービスである。高速無線通信のインフラ整備の進展やスマートフォンの普及と重なり、微博のユーザーが右肩上がりに急上昇し、中国のソーシャルメディアの中で、ユーザー数の増加速度が一番速いソーシャルメディアとなっている (章, 2017)。2009年にサービスを開始した微博は、2011年末に既にユーザー数は1.8億を突破した³⁾。その後、毎年増加し続ける傾向にあり、2019年までに個人アカウントの月活躍数⁴⁾が4.62億にのぼり⁵⁾、今は中国語圏最大のソーシャルメディアとして発展を遂げている。微博は個人ユーザーの利用のみなら

1) 突発事件：社会に突発的な危機を与える事件。例えば2003年に発生したSARSなどの公共衛生事件や、2011年温州列車脱線事故などの事故など。こうした事件は中国では「突発事件」と呼ばれている。

2) We Chat：微信とも。中国テンセント社が開発したメッセージアプリ。現在は世界中に10億人以上のユーザー数がある。機能は、LINEに似ている。

3) 『2012 新浪微博用户发展报告』2012年7月

4) 月活躍数：新浪微博において、毎月の投稿があるユーザーの数。

ず、各マスメディアや民間企業などにも積極的に活用され、中国社会全体に対して大きな影響を与えている。

誰でも手軽に情報を発信し、相互のやりとりが自由にできる微博は、その瞬時に情報を拡散できる力によって、ニュースの伝播や対人コミュニケーションの過程に少なからず変化を与えている。その中で、膨大なフォロワー数を有し、その発言や転載がすぐに注目されるアカウントは、オピニオンリーダー的存在として活躍し、マスメディアほどの伝播効果を持つと言っても過言ではない。

微博の普及に伴い、一般民衆も公的な場で意見を発信することが容易になった。つまり、マスメディア以外の個人がソーシャルメディアを通じて社会に異議申し立てをできるようになってきた。また、報道機関はソーシャルメディアを「速報のメディア」として利用し、出来事の展開に合わせて、随時、頻繁に続報を出してきた（李，2013）。多くの報道機関は、微博を日常的なニュース伝達のツールとして活用している。ニュースを届けるためのプラットフォームとしてだけでなく、ニュースになりうる出来事を発掘するためにも微博を活用している。

また、中国のマスメディアは当局に制限されているため、インターネットは政策批判、政治参与への唯一かつ最も重要なルートとなっている（Zheng, 2007）。微博の普及によって、言論空間が発生し、中国の社会問題が可視化されていることが明らかになった（周洲・松野良一，2014）。特に近年では突発事件の情報拡散において、新しい情報普及のインフラとして注目されている。そのほか、世論喚起という面においても、微博は公権力への監視を強め、政府に情報開示や政府の対応に民意を反映させる可能性がでてきた（劉，2016）。

このような背景から、中国政府当局も微博に進出し、世論形成の主導権を把握できるように工夫をしてきた。当局は、共産党の機関紙である「人

民日報」の微博公式アカウントを使って、一般民衆の関心を集めた事件やネット世論の波を巻き起こしやすい問題を積極的に取り上げ、一般民衆と積極的に対話する姿勢を見せている（劉，2016）。

このような背景を踏まえて、本研究は、「アイスボーイ事件」を事例として、中国政府当局の対応に注目する。そして、「新浪微博」におけるネット世論の変容を分析することによって、同事件と当局側の政策との関連性を考察する。

1.1.3 アイスボーイ事件の経緯

2018年1月9日、頭髪と眉毛が霜だらけ、頬を真っ赤に膨らした姿で登校した8歳の少年の写真がインターネットで多くの注目を集めた。

一人の少年が教室に立っており、彼は薄い服を着て、髪と眉毛には白い霜が付いていた。後ろには、他の子供たちが彼の様子を見て笑っている姿が写っていた。

写真の少年は、雲南省昭通市魯甸県新街鎮転山包小学校の三年生、王福満。教育資源が不十分な貧困地域に生活している王福満は、県内の小学校に通うために、毎日1時間以上をかけて4.5キロの道のりを歩いて通学していた。写真が撮られた日の気温は、マイナス9度だったという。

学校の関係者によると、写真は2018年1月8日8時50分ごろに撮影されたものである。その日は小学校の期末テストの日だったが、王は他の生徒より少し遅く登校した。8時40分の授業開始のベルが鳴った10分後に、彼は教室に入った。そのとき、担任の先生は真っ白になった彼の頭を見て、写真を撮影し、自分のWe Chatの「モーメンツ」⁶⁾にシェアした。校長がその写真を見つ

6) We Chatの「モーメンツ」機能：中国語では「友達の間」と呼ばれ、We Chatの利用について欠かせない機能の一つである。モーメンツ機能を通じて、友達同士で自分が「モーメンツ」に投稿した写真、文書などを共有しあうことができる。自分で投稿すると、登録している友人のみが記事を読み、記事に対して「コメント」や「いいね」を残すことが出来る。また、記事の投稿だけではなく、おすすめの音楽や読んだネット記事などを友人同士で共有することも可能となる。



写真1 微博に投稿され「アイスボーイ」(冰花男孩)と名付けられた少年

<http://j.people.com.cn/n3/2018/0110/c94475-9313922.html>
(2020年9月28日閲覧)

け、ソーシャルメディアに投稿した。そのため、写真はインターネットで一気に広まり、多くのユーザーの注目を集めた。

さらに、1月9日12時54分、中国共産党機関紙「人民日報」の微博公式アカウント（以下は「@人民日報」と略称する）がアイスボーイに関する記事を掲載し、これが多くの反響を呼ぶことになった。

王福満はネットユーザーから「アイスボーイ」(冰花男孩)というあだ名をつけられ、彼の写真は数万回シェアされ、微博によって広く中国語圏に拡散された。

厳しい環境の中にいる子供に対する同情の声や勉強を諦めずに登校している子供に対する称賛の声など、ネット上では農村地域の貧困・教育問題をめぐる議論が再燃した。

その後、多くのマスメディアがアイスボーイの

元へ殺到した。それらの取材に対して、アイスボーイは「北京に行き、警察官になりたい」という夢を語った。その結果、人民公安大学が、アイスボーイを見学に招待するまでに発展した。

また、アイスボーイに対して、社会から多額の寄付が寄せられた。中国共産党⁷⁾雲南省委員会、雲南省青少年育成財団および地方ボランティア協会など、地方政府や自治体は素早く行動し、「青春暖冬基金会」を立ち上げ、社会に幅広く寄付を募った。1月10日までに、「青春暖冬基金会」は社会から10万元の寄付金が寄せられた。それらの寄付金は当日の朝に中国共産党雲南省委員会、雲南省青少年育成財団および中国共産党昭通市委員会によって、魯甸県新街鎮転山包小学校および近くの学校の学生に配付された。81人の生徒が寄付を受け取り、1人あたりの金額は500元であった。

また、翌日の1月11日までに、雲南省青少年育成財団は「新浪微博」と「テンセント」のクラウドファンディングサービスを通じて、一般ユーザーから合計30万元以上の寄付金を集めた。しかし、30万元の寄付金の配付は貧困地域の生徒全体に与えたものとして、アイスボーイの手元に再び届かず、アイスボーイ個人が受け取った寄付は1月10日の500元のみだった。

こうした不透明性から、寄付金の配付問題は一時ネットで多くの議論を呼んだ。これに対して、地元政府は、「集められたすべての寄付金は、中国共産党雲南省委員会を介して必要な子供たちに配付する」と説明した。

その後、事件の発生から1年後の2019年1月に、アイスボーイは学校の近くの新居へ転入することになり、家族の生活も好転することになった。学校の設備も整備され、暖房付きの新校舎と学生寮が建てられた。

社会格差がまだ激しい中国において、アイスボーイと同様に貧困問題を抱えている子供はたく

7) 中国共産党：中国共産党による指導のもと、14歳から28歳の若手エリート団員を擁する青年組織。

表1 アイスボーイに関連する出来事

2018年1月8日	担任の先生が写真を撮り、さらに校長が投稿
2018年1月9日	「@人民日報」によって転載され、アイスボーイが全国で有名に
2018年1月10日	アイスボーイが自分の将来の夢を発表 「青春暖冬基金」の配付（生徒一人当たり500元）
2018年1月11日	寄付金の配付に関する不透明性の問題が発覚 （合計30万元、アイスボーイ個人は以前の500元のみ） 人民公安大学がアイスボーイに招待状を送る
2018年1月19日	アイスボーイ一家は北京へ、人民公安大学を見学
2019年1月	メディアによる継続的報道：アイスボーイは生活好転へ

さん存在している。しかし、アイスボーイだけが、その写真のインパクトと面白さから、一気に特別に取り上げられることになった。その中でも、党機関紙である「@人民日報」の発信は、事件の拡散に重要な役割を果たした。

ソーシャルメディアの発展に伴い、一般民衆も公的な場で意見を発信することが容易になり、マスメディア以外の個人もソーシャルメディアを通じて社会に異議申し立てできるようになった。そのため、一般民衆から政府当局の立場とは距離を置いた議題を提起することが可能になった。このような状況に置かれた中国政府当局にとって、ソーシャルメディアにおけるアジェンダ・セッティング機能に関する再検討は、極めて重要な意義を持って来たのである。今回のアイスボーイ事件において、政府当局が積極的に関与したのも、そうしたメディア環境の変化に積極的に対応しようとした表れだと考えられる。

1.2 研究目的

本研究は、2018年にブレイクした「アイスボーイ事件」におけるネット世論形成のメカニズムを明らかにすること目的とする。

アイスボーイ事件において、微博でどのようなネット世論が形成され、また、その世論がどのように形成されたのかを分析する。その上で、「人民日報」の微博公式アカウントが、ネット世論形

成の過程において果たした役割を明らかにする。

第2章 先行研究

2.1 中国のネット世論における定義

インターネット時代に入った現代において、人々を取り巻く情報環境は大きく変化を遂げた。ソーシャルメディアをはじめとするコミュニケーションツールの普及に伴い、社会的事件における世論形成のプロセスも大きく変わった。そのため、ソーシャルメディアにおける世論研究について再検討する必要がある。ソーシャルメディアが世論研究の新たな研究対象になった。

「世論」とはPublic Opinionの訳語であり、その概念にはさまざまな定義がある。遠藤（2016）は、「世論」を検討するときに、まずは、世論が可視化される「場」としての「社会」について考えておく必要があると指摘した。また、「世論」という概念を動的に捉えることは、メディアと公共圏の関係性について考察することが必要となる。遠藤（2016）によれば、「ハーバーマスは公共圏を、民主主義の思想を前提に、市民が社会的諸問題について、マスメディアなどのコミュニケーション手段を通じて議論し世論を形成して、行政の政策決定・遂行過程に影響を及ぼす社会的領域」と定義している。つまり、従来のメディア環境において、マスメディアをコミュニケーション手段として捉える市民は基本的にエリート層で

あり、新しいメディア環境においては、ソーシャルメディアにおける世論を定義することが極めて重要であると指摘した。

車 (2014) は、中国社会におけるインターネット「公共圏」の可能性を捉える側面から、中国社会におけるオンライン・コミュニケーションの持つ力を検証した。車は、「社会や政治、そのほか様々な問題をめぐって市民が議論し、公的意思を形成していく空間」を中国インターネットにおける「公共圏」として用いた。そして、微博における論調の量的推移および内容分析による質的研究から考察を行った。その結果、微博上では理性的で責任ある発言が存在し、そこから言論の形成が見られたとした。それは「ハーバーマスの「公共圏」の討議機能（自律的個人同士の主観的なコミュニケーション過程として）と合致することから、微博上の言論空間を「公共圏」捉えることができたと言える」と結論づけた。一方、陳 (2015) も、微博には、市民が意見を自由に発信できる「小公共圏」が存在すると指摘した。また、劉 (2006) は、ネット世論を「インターネットを通じて表現されたさまざまな感情、態度、意見の合計」と定義した。他方、崔 (2012) は、ネット世論を「インターネットユーザーが公開した社会的事件に関する言論の合計」と定義している。

2.2 中国のネット世論に関する研究

崔 (2012) によれば、2007 年に起きた華南トラの写真偽造事件⁸⁾以降、ネット世論が政治分野およびマスメディアにおける世論に影響を与え始

め、その後徐々に影響力が広まった。そのため、中国政府がネット世論への監視工作を始め、「人民網ネット世論監視観測室」などの監視システムを設立した。

このような背景の下で、ソーシャルメディアとマスメディアの役割の転換や、ネット世論の政府当局への影響力といった点に注目する研究が現れた。

劉 (2014) は、ネット世論形成の過程において、マスメディアとソーシャルメディアが相互補完的に機能していると指摘した。しかし、政府当局の管理の下では、その相互補完的な機能が、世論形成に効果的に作用するためには、ある一定の条件と限界がある、とした。

また、陳 (2015) は 2011 年に起きた温州列車脱線事故を研究の対象にして、ニュースサイト、微博、掲示板の 3 種のメディアにおける報道と書き込みの内容分析から、ネット世論とマスメディアの間の関係性およびネット世論が社会全体に及ぼす影響について考察した。その結果、ネットメディアとマスメディアの間には相互参照の関係が作り出されて、中国政府当局がネット世論を重視し、一部の意見を受け入れる傾向があると指摘した。

劉 (2014) と陳 (2015) の研究から、ネット世論の形成は、マスメディアとソーシャルメディアが相互参照した結果であると考えられる。

中国の社会的な事件に関するネット世論形成に関する研究も発表されるようになった。

マスメディアが主流であった従来の中国のメディア環境においては、マスメディアは政府当局の管理の下に位置するため、当局は社会をより強力に管理することができ、世論の形成は上から下まで比較的スムーズであった。こういったメディア環境では矛盾が比較的緩和され、世論の激しい反発は頻繁に発生しなかった。しかし、ソーシャルメディアが普及した現在では、個人でもソーシャルメディアを通じて社会に異議申し立てができるようになった。このため、ソーシャルメディアの発信に焦点を当てる研究は増加している。

8) 華南トラの写真偽造事件：2017 年に発生した絶滅危惧種である野生華南トラに対する写真偽造事件。2017 年 10 月 12 日、中国陝西省林業庁が「絶滅危惧種である野生の華南トラが発見された」と発表し、写真撮影に成功した周正龍氏に賞金 2 万元を授与した。しかし、写真が公開されたところ、ネット上で偽造の疑惑が指摘され炎上した。その後、同写真の偽造行為が判明し、翌年 11 月、周の行為は金銭目的の詐欺罪にあたるとして懲役 2 年 6 カ月・執行猶予 3 年の判決が下された。また、「検証もなしに写真を認定した」として関係官僚 13 人の処分が発表された。

川村（2012）は21世紀初頭において中国各地で頻発する「群体性事件（集団抗議事件）」の検証を通じて中国の社会変動を構造的に分析し、共産党管理下にあるメディア報道の変化とネット世論の影響力を考察した。それによれば、若者や権利主張に目覚めた市民を中心としてネット世論が形成されており、それが中国の政策に影響を与えているという。また、ネット市民の異議申し立てがあることによって、中国社会は独自の段階を経て民主化に近づいているなど、ネット世論による民主化に期待する見解が明らかにされている。

李（2013）は、ネット世論が報道の自由、政府に対する国民の信頼度を高めるために重要な役割を果たすことを明らかにした。また車（2014）は、中国社会という独特なメディア環境において、微博はすでに当局と一般民衆の間に立ち、両側の緊張を緩和するという調整機能を果たしていると指摘した。

また、突発事件をめぐるネット世論形成に関する研究が多く出てきている。陳（2017）は5つの事例をめぐって、マスメディアの報道とネット世論の形成を論じた。それによれば、近年の突発事件において、ネット世論が政府の対応やマスメディアに与えた影響は顕著となり、ソーシャルメディアが公権力に対する市民の監視を強め、政府に情報開示を求め、政府の対応に民意を反映させる可能性があるとして指摘している。

このような背景の下、一般市民もソーシャルメディアを通じて社会に異議申し立てができるようになり、政府当局の立場とは距離を置いた議題が提起される可能性が徐々に拡大してきた。そのため、政府当局は世論誘導の主導権を握るために、ソーシャルメディアを利用して情報発信するだけでなく、ネット世論の動向にも注目する傾向が見られるようになった。

これらの先行研究を踏まえ、中国政府当局が突発事件発生時における役割と限界を考察する研究も登場してきた。

葛（2018）は、中国の「政務微博」⁹⁾を中心に、2015年に起きた天津爆発事故をめぐって、突発事件に

おける「政務微博」の情報公開の役割および世論に与える役割について考察した。その結果、中国の「政務微博」はマスメディアの言論とほぼ同じ方向性を有し、大きな相関があると指摘された。特に、マスメディアの情報内容を補完する存在として働いていることもわかった。また、地元政府においては、突発事件における情報公開には限界があり、発信できる情報の内容が政府当局に制約されている傾向がある。ネット世論対応に関しては、なお不備な点が多々あり、政府批判につながる敏感な話題については触れていない。制度的な制約が現実問題として存在していることは事実としても、可能な範囲内で市民の情報ニーズに応えていく努力が求められるとしている。

楊（2018）によれば、「人民日報」の報道により、情報の拡散経路は単方向の集中段階から双方向の拡散段階へ変わった。その中で、マスメディアが能動的にアジェンダをセッティングすれば、素早く世論の方向をコントロールすることができる。つまり、マスメディアが、話題になっている事件の核心を把握することは、ポジティブな評論へと誘導できる可能性が出てくると指摘した。

第3章 拡散経路に関する分析（研究1）

3.1 研究目的

事件をめぐる書き込み数の多さは、その事件に対する注目度につながっている。書き込み数が多いほど、人々がその事件に注目していることを示している。書き込み数の推移およびその内訳を調べることによって、微博における拡散経路を可視化させることができると考える。ここでは、マス4媒体（ラジオ、テレビ、新聞、雑誌）の微博公式アカウントに絞って検討を加える。

研究1は、マスメディアの微博公式アカウントによる、アイスボーイ事件関連の書き込み数の推移およびその内訳を考察し、同事件の拡散経路を明らかにすることを目的とする。

9) 政務微博：政府の直結関係機構あるいは機能部門の公式微博アカウント。

3.2 方法と手続き

微博には毎日膨大な書き込み数があるため、ここでは「知微事見」という微博分析ツールを用いて、アイスボーイ事件の拡散経路について分析を行う。「知微事見」とは、微博リサーチプラットフォーム「知微データ」が提供したテキストマイニングツールである。

本研究では、マスメディア微博公式アカウントからの発信に絞って分析する。

アイスボーイ事件への報道量が継続した2018年1月9日から1月20日の間を対象期間とし、「知微事見」ツールを用い、マスメディアの微博公式アカウントによる同事件関連書き込み数の推移を考察する。その上で書き込みの内訳から、インターネットにおける拡散経路を明らかにする。

3.3 結果と考察

2018年1月9日から1月20日の間、マスメディア微博アカウントによるアイスボーイ事件関連の書き込み数がどのように変動したのかを示す(図1)。

図1から、1月9日から11日の3日間は発信が最も活発であったことが分かる。1月10日において、書き込み数が最大であり、662件にも達

している。その後、時間の経過に連れて、書き込み数が徐々に減少した。しかし、16日に、アイスボーイへの寄付金問題が炎上したため、16日から17日にかけて、書き込み数が第2のピークを迎えて、連日100件を超えた。

図2は、2018年1月9日から1月20日までの、マスメディア微博アカウントにおける事件関連書き込み数の時間推移である。ここでは、事件の拡散過程において書き込み数が顕著に増加した時間帯の書き込みの内容を分析対象として取り上げる。4時間以内に、書き込み数がプラス20件となった時間帯を中心に分析を行う。アイスボーイ事件の拡散過程において、5つのピークがあることがわかった。それぞれは1月9日の15時～16時、1月10日の10時～11時と14時～15時、1月11日の8時～9時および1月16日の13時～14時であった。

また、それぞれの時間帯における最も反響があった書き込みの内容の詳細は、表2の通りである。

上記のとおり、マスメディアの微博書き込み数の時間的推移の内訳(図2)および反響が大きかった書き込み内容の詳細(表2)を分析した結果、マスメディア公式アカウントは、アイスボーイ事

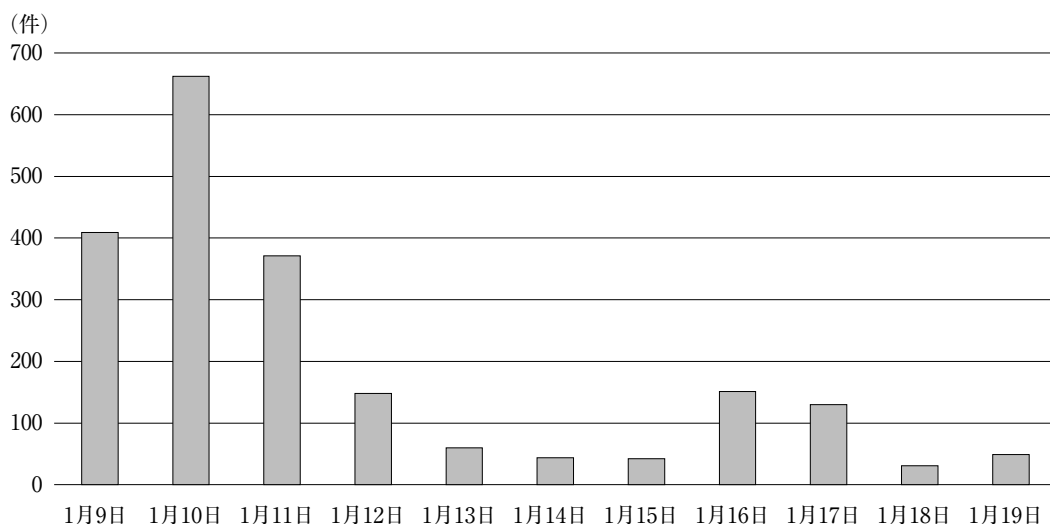


図1 マスメディア微博アカウントによる書き込み数の推移

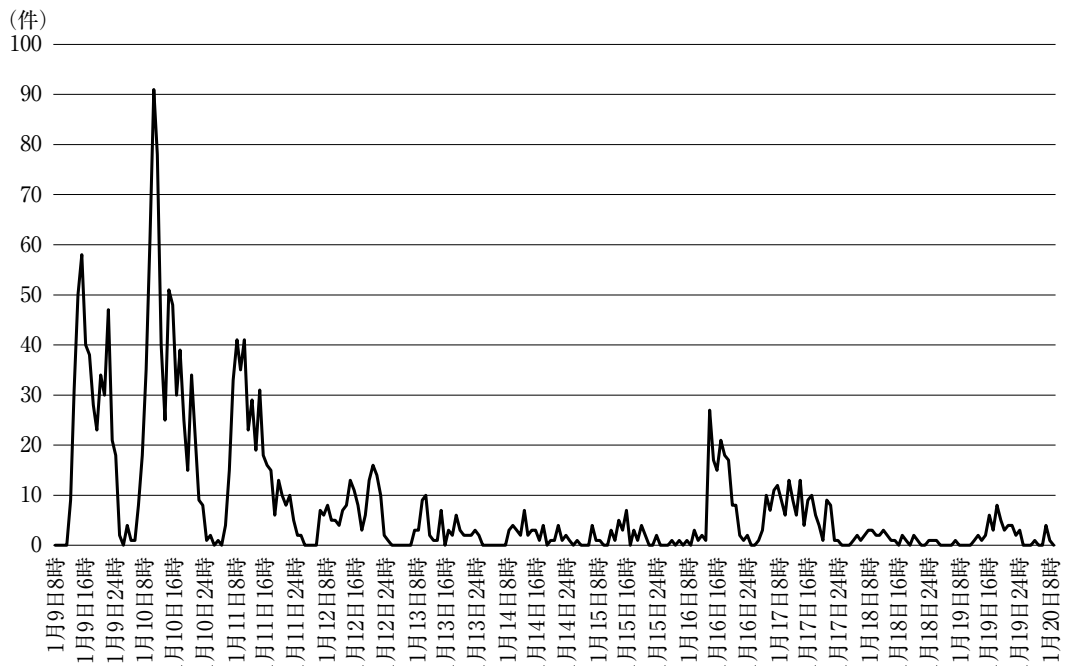


図2 マスメディア微博アカウントにおける事件関連書き込み数の時間的推移

表2 反響が大きかった書き込み内容

時間帯	発信アカウント	反響が大きかった書き込み内容
1月9日 15時～16時	@央視新聞	通学中のアイスボーイ、ネットユーザーから励ます声が高まる
1月10日 10時～11時	@頭条新聞	アイスボーイ：通学路は寒いけど辛い、将来は警察官になり、悪い人を捕まえる
1月10日 14時～15時	@人民網	事件をめぐる、社会に幅広く寄付を募った 社会各団体による貧困地域の子どもたちへの支援始まる
1月11日 8時～9時	@新京報	生放送：アイスボーイの通学路を直撃
1月16日 14時～15時	@頭条新聞	アイスボーイへ合計30万円の寄付金。しかし500元しか届かなかった 地元教育部門はネットユーザーに激しく叩かれた

件の進展をめぐって最新情報を連続して発信していることがわかった。情報発信が最も活発な3日間（1月9日から11日）における書き込みを分析したところ、アイスボーイ事件の詳細および事件の流れ、また事件が引き起こした論争などが、主な内容であった。

マスメディアは、微博を日常的なニュース伝達のツールとして活用し、随時、頻繁に続報を出し

続けたことがわかった。一方、1月16日にアイスボーイへの寄付金問題をめぐる論争について、マスメディアは微博を通して地元教育部門に対する監視機能を果たし、政府当局にとっては不利な情報であっても、積極的に報道に取り組んだこともわかった。

第4章 「@人民日報」書き込みの内容分析（研究2）

4.1 研究目的

研究1では、マス4媒体の発信を分析したが、研究2では、「@人民日報」だけに注目し、アイスボーイ事件関連書き込みについて内容分析を行う。その上で、「@人民日報」による、アイスボーイ事件において世論誘導のメカニズムについて分析する。

4.2 方法と手続き

「@人民日報」は、中国共産党の主張を一般市民に向けて広く届けるソーシャルメディアである。また、様々な党機関や地方の党機関の広報モデルとしても位置付けられている。¹⁰⁾「@人民日報」を研究対象に選択する理由は、その大きな影響力と中国当局を代表するという特徴から、ソーシャルメディア空間におけるアジェンダ・セッティングを主導する力を有すると見られ、情報拡散経路の分析においては不可欠な要素と考えたからである。

2018年1月9日から2019年1月9日までの1年間に、「@人民日報」におけるアイスボーイ事件に関する書き込みをすべて収集した。さらに、その中からメディア発信フレームを抽出し、量的・質的分析を行い、アイスボーイ事件に関する「@人民日報」の発信行動および役割を考察した。

4.3 結 果

表3から見ると、2018年1月から2019年1月の1年間にわたり、「@人民日報」は微博において、13件の書き込みを行った。それらの内容の一覧は、表3のとおりである。

次に、13件の書き込みについて、個別に見ていく。

① 18/01/09 12:54 雲南省の「アイスボーイ」
髪が凍った通学少年

閲覧数、シェア数、コメント数と「いいね」数などの指標から見ると、最も人気を集めた書き込みは、アイスボーイの画像がネットで流れた1月9日による発信であった（写真2）。その書き込みは「@人民日報」が初めて事件を取り上げたものであり、2018年1月9日の12時54分の発信であった。この書き込みは事件の詳細をまとめた内容であるため、すぐに拡散され、大きな注目を集めた。

事件発生後まもなく、この書き込みは瞬時に拡散し、4万回以上シェアされ、5万件近くのコメントを得て閲覧数は6千万回を越えた。人々から高い注目を集め、この事件が多様なソーシャルメディアで転載されることにより、ユーザーによるネット上の議論が盛り上がった。具体的に見ると、微博上の議論は、人民日報オンラインの記事を引用した書き込みであり、アイスボーイの紹介や彼の通学状況についてのもの。そのほか、暖房器具がない校舎、パンやビスケット一枚で終わる生徒の日常的な朝食など、アイスボーイが生活する地域の貧困状況も「人民日報オンライン」の記事によって掲載された。

② 18/01/09 20:11 「アイスボーイ」から見える：社会全体の努力がまだ足りない

「@人民日報」が、微博①をコメント付きで転載したものである。「@人民日報」はネットユーザーのコメントを主な内容として、転載の返信欄に書き込んでいた。具体的には、社会全体が努力を重ねることを提唱するコメントや、アイスボーイの明るい未来を祈るといったコメントなどを載せている。また、「@人民日報」がアイスボーイを応援する人々の声に応え、支援情報も添付した。政府当局が、アイスボーイ事件において、社会に幅広く寄付を募る姿勢を見せた。

③ 18/01/09 23:34 #明日にこんにちは# 運命を変えるために勉強するアイスボーイへの賛

10) 劉亜菲（2016）「中国ネット世論形成における「党・政府主導型オピニオンリーダー」の発信行動と役割：『@人民日報』を例として」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』22, pp 37-55, 北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院

表3 「@人民日報」の書き込みの内容

書き込み内容の要約	閲覧数 (回)	シェア数 (回)	コメント 数(回)	いいね 数(回)
① 18/01/09 12:54 雲南省の「アイスボーイ」 髪が凍った通学少年	6258 万	43121	49149	283750
② 18/01/09 20:11 アイスボーイから見える：社会全体の努力がまだ足り	413 万	1630	1260	5185
③ 18/01/09 23:34 #明日にこんにちは# 運命を変えるために勉強するアイスボーイへの賛歌	514 万	2659	2223	20027
④ 18/01/10 13:53 アイスボーイ：通学路は辛い、北京の子供たちの勉強する姿が見たい！ 将来の夢は警察	235 万	779	989	5262
⑤ 18/01/11 17:33 中国人民公安大学からアイスボーイへの呼びかけ「学校へようこそ」	487 万	984	1019	10295
⑥ 18/01/31 13:54 アイスボーイと同じ状況に置かれている子供が多い 馬雲公益基金会在作る寄宿学校が解決策になるかも	570 万	1028	1142	2639
⑦ 18/01/31 22:49 人民微評 まだ知られていない「アイスボーイ」が 沢山いる 社会全体の協力が必要	233 万	372	293	1953
⑧ 18/03/09 21:58 全国両会議題の事例に：アイスボーイをなくす	291 万	378	127	805
⑨ 18/12/22 08:00 #2018 年を遡る# 全国に感動を与えた人物 雪の中で 4.5 キロを歩くアイスボーイ	838 万	3552	441	4304
⑩ 18/12/22 22:25 人民微評 貴方のおかげだ…暖かさを感じる	331 万	847	167	3562
⑪ 18/12/25 07:32 #2018 年を遡る# 氷だらけのアイスボーイ	709 万	3023	239	2370
⑫ 19/01/05 11:14 #アイスボーイの一年 新転入と斬新な学生寮 この冬は寒くない	1196 万	1526	1474	14155
⑬ 19/01/05 22:22 人民微評 政策を通して 貧困地域の子供を助ける	306 万	461	405	4003

新浪微博のデータを基に筆者作成（2019 年 12 月 21 日現在）

歌

3 件目の書き込みは #明日にこんにちは# というハッシュタグを付けた、アイスボーイへの称賛文である。「@人民日報」はこの書き込みを通じて、“運命を変えるために一生懸命勉強しているアイスボーイ”という積極的な意味を加えた。また、すべての子供が同じスタートラインに立てるように努めるという意見を表明した上で、社会全体の努力を喚起することを試みている。

④ 18/01/10 13:53 アイスボーイ：通学路は辛い、北京の子供たちの勉強する姿が見たい！ 将来の夢は警察

この微博は「澎湃新聞」がアイスボーイ取材した新聞を引用し、アイスボーイの夢について

「@人民日報」が書き込んだもの。「澎湃新聞」の取材によって、アイスボーイの夢は、警察官になることであることがわかった。この記事が、思わぬ波紋を呼ぶことになる。

中国では、他の新聞やテレビなどのメディアの記事や動画を、マスメディア間で転載（リツイート）することは、頻繁に行われている。

⑤ 18/01/11 17:33 中国人民公安大学からアイスボーイへの呼びかけ「学校へようこそ」

以前の書き込みで、アイスボーイの夢が、将来警察官になることであることがわかり、人民公安大学が行動を起こすことにつながった。

この「@人民日報」の書き込みは、人民公安大学が熱烈に、アイスボーイを同大学の見学へ招待

① 18/01/09 12:54 雲南省の「アイスボーイ」 髪が凍った通学少年



写真2 「@人民日报」書き込み①

② 18/01/09 20:11 「アイスボーイ」から見える：社会全体の努力がまだ足りない



写真3 「@人民日报」書き込み②

- ③ 18/01/09 23:34 #明日にこんにちは# 運命を変えるために勉強するアイスボーイへの賛歌

人民日报 

+关注 

2018-1-9 23:34 来自 新媒体聚合平台

【#你好，明天#】你的美丽冰花，他的天寒地冻，云南#冰花男孩#戳人泪点。满是冻疮的手，看着真心疼。而手底99分的考卷，却让人看到少年的奋斗。为改变命运，风雪亦读书。但“大雪压青松，青松挺且直”的自勉，本不该刻他手心！让孩子站在同一起跑线，让温暖无差别地辐射，全社会要努力的还太多！



写真4 「@人民日报」書き込み③

していることを紹介している。また、人民公安大学の紹介および、ユーザーからの称賛のコメントをまとめて投稿している。

- ⑥ 18/01/31 13:54 アイスボーイと同じ状況に置かれている子供が多い 馬雲公益基金会在作る寄宿制学校¹¹⁾が解決策になるかも

- ⑦ 18/01/31 22:49 人民微評 まだ知られていない「アイスボーイ」が沢山いる 社会全体の協力が必要

この⑥と⑦の2件の書き込みは、主に「寄宿制学校」を中心とした内容であった。⑥の書き込みにおいて、「@人民日报」は、「寄宿制学校の建設」が農村地域の学校施設不完備の解決策になると指摘し、その上で馬雲公益基金会在が農村部の貧困地域で寄宿制学校を建てている記事にリンクが張られた。さらに⑦の書き込みには、社会全体に「寄宿制学校」への賛同を求める姿勢が多く見られた。

- ⑧ 18/03/09 21:58 全国两会¹²⁾議題の事例に：アイスボーイをなくす

この書き込みは、全国两会で取り上げられた議題についての内容。その中で、雲南省両会の代表李孝軒は、アイスボーイを事例として取り上げた。李は「国家は貧困地域の教育問題の解決に力を入れ、学校の施設環境を整備し、教育の質を向上させ続けるべきだ」というアジェンダを提示した。

- ⑨ 18/12/22 08:00 #2018年を遡る# 全国に感動を与えた人物 雪の中で4.5キロを歩くアイスボーイ

- ⑩ 18/12/22 22:25 人民微評 貴方のおかげだ…暖かさを感じる

- ⑪ 18/12/25 07:32 #2018年を遡る# 氷だらけのアイスボーイ

⑨から⑪の書き込みは、2018年に全国に感動を与えた人物の一人としてアイスボーイを取り上

11) 寄宿制学校：全寮制学校を指す。子供が両親や家庭と離れ、寮生活において学校生活をおくる。

12) 全国两会：「中国全国人民代表大会」と「中国人民政治協商会議」の総称。

- ④ 18/01/10 13:53 アイスボーイ：通学路は辛い、北京の子供たちの勉強する姿が見たい！将来の夢は警察



写真5 「@人民日报」書き込み④

- ⑤ 18/01/11 17:33 中国人民公安大学からアイスボーイへの呼びかけ「学校へようこそ」



写真6 「@人民日报」書き込み⑤

- ⑥ 18/01/31 13:54 アイスボーイと同じ状況に置かれている子供が多い 馬雲公益基金会在作る寄宿制学校¹¹⁾が解決策になるかも



写真7 「@人民日报」書き込み⑥

- ⑦ 18/01/31 22:49 人民微評 まだ知られていない「アイスボーイ」が沢山いる 社会全体の協力が必要



写真8 「@人民日报」書き込み⑦

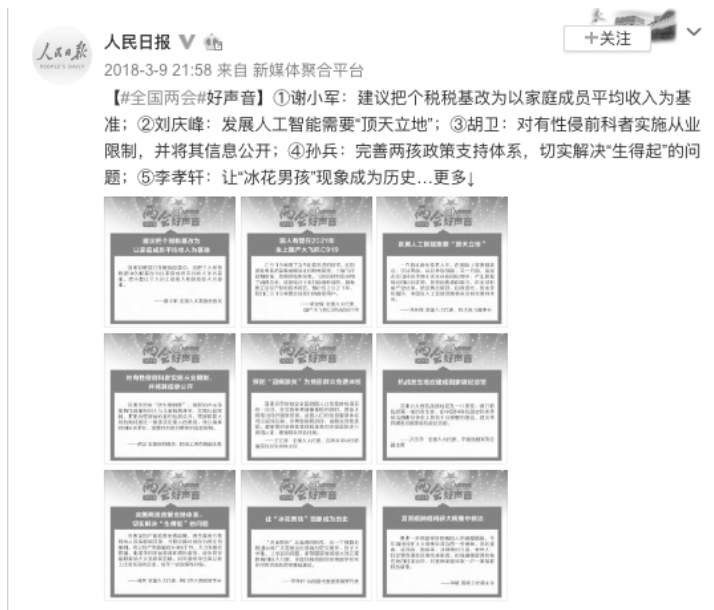
⑧ 18/03/09 21:58 全国两会¹²⁾議題の事例に：アイスボーイをなくす

写真9 「@人民日报」書き込み⑧

げた。

⑫ 19/01/05 11:14 新居転入と新宿舍 この冬は寒くない

⑬ 19/01/05 22:22 人民微評 政策を通して貧困地域の子供を助ける

一年後の2019年1月5日に、「@人民日报」が再びアイスボーイの最新情報を発信した。一年前と比べて、人々の事件への注目度が低くなっている傾向が見えたが、このアイスボーイの一年後の最新情報に関する書き込みは1526回シェアされ、1474のコメントを得た。

中国においては、あらゆるマスメディアが政府の審査対象になる。このため、政府に悪評を与える可能性のある事件に対しては、マスメディアの報道は持続しないという指摘がある。しかし、アイスボーイ事件については、党・政府機関の意思を代表する「@人民日报」が、事件の最新情報を発信し続け、この事件を取り上げながら政府の意思を表明し続けたことがわかる。

4.4 「@人民日报」書き込みの発信フレームに関する分析

ジャーナリズムが社会を動かす過程を動的に捉えるためには、「メディアフレーム」の動きを考察しなければならない。メディアがニュース報道を行う際に、どのような視点からニュースを報道するのかを決める枠組みは「メディアフレーム」と呼ばれ、外部世界に関する受け手の認識形成に影響を与えるとされている。このような「認識の枠組み」としてのフレームが「メディア世論」の形成においては決定的に重要である（伊藤，2009）。メディアフレームの視点から世論を分析する研究は数多く行われている。

アイスボーイ事件についても、「@人民日报」がどのような視点において微博に発信したのかを明らかにするため、ネット世論を分析する際に、「フレーム」という概念を取り入れる必要があると考える。ある意味で、「@人民日报」の発信フレームを研究することで、同事件に関する情報伝達がどのように構築されたのかを明らかにすることができる。

⑨ 18/12/22 08:00 #2018 年を遡る# 全国に感動を与えた人物 雪の中で4.5キロを歩くアイスボーイ



写真 10 「@人民日报」書き込み⑨

⑩ 18/12/22 22:25 人民微評 貴方のおかげだ…暖かさを感じる



写真 11 「@人民日报」書き込み⑩

⑪ 18/12/25 07:32 #2018 年を遡る# 氷だらけのアイスボーイ



写真 12 「@人民日报」書き込み⑪

⑫ 19/01/05 11:14 新居転入と新宿舍 この冬は寒くない



写真 13 「@人民日报」書き込み⑫

⑬ 19/01/05 22:22 人民微評 政策を通して 貧困地域の子供を助ける



写真 14 「@人民日报」書き込み⑬

フレームの概念については、多様な定義がなされている。張 (2003) は「報道フレーム」という概念を用い、「新聞が特定の争点を報じる際、争点の定義、属性、因果関係と対策などを特定の方向へ提示するための枠」とした。

Gamson (2001) は、ニュースフレームを「報道されるニュース範囲の選択」および「ニュースを構築する態度の選択」という2つのレベルでフレーム分析の枠組みを提示した。Gamson による本格的なフレーム分析は、①「ニュースの制作過程」②「テキストの分析」③「テキストとオーディエンス」という3つの要素を含む複雑な相互作用である。潘・喬 (2005) は、Gamson の定義を踏まえ、ニュースの5W要素と合わせて見る必要があるとし、中国の突発事件についてメディアフレームの分析を行った。具体的には、情報源、報道の対象、事件の経過、詳細、結果、事件が及

ぼした社会的な反響、評価、事件の背景情報を挙げた。

本研究は、アイスボーイ事件に関する書き込みの特徴に合わせて、潘・喬 (2005) が用いたフレームを使い、「@人民日报」の発信フレームを①「事件の詳細」（事件の流れに関する情報）、②（事件が引き起こした）「社会的影響」、③「事件への評価」という3つのカテゴリーに分類し、分析を行った。

図3に示したとおり、「@人民日报」の発信フレームの3項目の中で、「事件への評価」フレームは39%、「事件の詳細」フレームは38%と、同程度の比率であり、比較的多かった。その一方で、「社会的影響」フレームは比較的少なく、23%であった。以上のデータから、「@人民日报」の発信は、主に「事件への評価」と「事件の詳細」という2つのフレームより構築されたことが

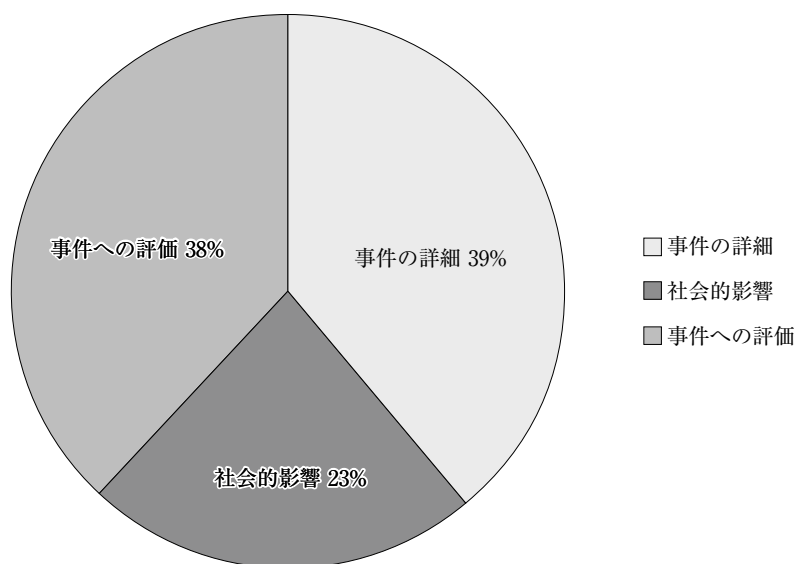


図3 フレーム別の書き込み件数及び割合の内訳

わかった。その中で、「事件の詳細」フレームが多かったことから、「@人民日報」が事件を継続的にフォローして発信していたと考えられる。一方、「事件への評価」フレームの多さは、「@人民日報」が事件をプラスのイメージへ誘導する傾向を示していると思われる。「社会的影響」のフレームが比較的に少なかったことは、あまり触れないことで、批判的なコメントや議論が起こることを避けたい意向が働いたのではないかと推測される。

以上のことから、「@人民日報」は常に事件関連の最新情報を伝達し、情報拡散過程において重要な役割を果たしていた。また、微博の書き込みを通して、アイスボーイを人々に感動を与えた人物として高く評価し、ネット世論をポジティブな方向へ誘導する傾向があった。

第5章 事件における世論形成のプロセス（研究3）

5.1 研究目的

研究3は、アイスボーイ事件において、事件後に微博上でどのようなネット世論が形成されたのかを明らかにする。その上で、「人民日報」の微

博公式アカウントがネット世論形成の過程に果たした役割を解明したい。

5.2 方法と手続き

本研究は、「@人民日報」の書き込みに付随するコメントの分析およびアイスボーイと関連する「微博話題」¹³⁾の書き込み分析を行う。

まず、「@人民日報」のアイスボーイ関連の書き込みに付随するコメント回数や転載回数¹⁴⁾の上位10位のコメントを抽出する、また、それらのコメントに付随するコメントをすべて抽出し、KH Coderを用いてテキストマイニングを行う。

次に、アイスボーイと関連する「微博話題」の

13) 微博話題：ハッシュタグのこと。新浪微博独自の投稿を様々なキーワードでカテゴリー別にまとめる機能。注目度が高く、社会影響力の大きい微博話題が微博ホームページの目立つ位置に表示される。

14) 新浪微博では、各書き込みに付随するコメント（一級コメント）に対して、再びコメントや転載することができる（二級コメント・転載）。また、各書き込みに付随する一級コメントの順位は、二級コメント・転載の数によって順位づけられる。二級コメント・転載が多いほど、対応の一級コメントの人気順が上昇する。

主題における書き込み数の推移および書き込みの主題の内容分析を行う。

5.3 「@人民日報」書き込みに付随するコメントの分析結果

本研究では、最初に KH Coder を用い、「@人民日報」書き込みに付随するコメントの頻出語を確認する、その上で、語と語の間の共起ネットワークを考察する。

まず、語の抽出および頻出語の確認を行った。

「@人民日報」によるアイスボーイに関連する書き込みは 13 件あり、その 13 件の書き込みに付随するコメント回数や転載回数の上位 10 位のコメントを抽出する。次に、抽出したコメントに付随するコメントをすべて抽出する。その中から無意味のコメント（絵文字のみのコメントと事件とは無関連の PR コメント）を除外する。

以上の作業によって得られた分析対象であるコメントの数は 255 件であった。KH Coder を用いて前処理を実行し、文章の単純集計を行った結果、合計 6564 の総抽出語数が確認された。また、異なり語数は 1805 であった。さらに、すべての文章にほぼ現われる一般的な語（助詞と助動詞）を除外し、分析に使用される語として 5603 の総抽出語と 1753 の異なり語が抽出された。これらの頻出語の内の上位 30 語とその出現頻度は表 4 のとおりである。

表 4 が示すように、一番出現頻度が高い語は「問題」であり、「@人民日報」書き込みに付随するコメントの中に 32 回もあらわれた。その次に出現した語は「お金」、「農村」、「国家」、「寄宿」、「教育」と「モスク¹⁵⁾」などである。全体的に見ると、学校や政府に関連する語が書き込みの中に頻繁に現れる傾向があった。

次に、コメントにおける語の間の共起ネットワークを考察する。

KH Coder の「共起ネットワーク」のコマンドを用い、「@人民日報」の書き込みに付随するコ

メントの中で、共起の程度が強い語を線で結んだネットワークは図 4 のとおりである。図 4 では、強い関係は太い線で、出現頻度の多い語は大きい円で描画されている。また、それぞれの語は全体のネットワーク構造の中でどの程度中心的な役割を果たしているかを示すため、サブグラフの 11 から 01 の順に中心性が高くなることを示す。そのほか、コメントの中でそれぞれの語がどのように用いられているかを探るため、語の間の関係性について記述し補足する。

まず、図 4 の左側から、一つ大きな語と語の間に塊があらわれている。概観すると、「中国」、「人民」と「大学」という語が緊密につながっている。その次に、塊の左上の部分には、「警察」と「夢」は「努力」という語と固まっている。またこれらと関連して、「注目」や「成長」と「努力」の関連性も強い。その下に位置するのは「成長」、「寄付」と「変化」である。

一方、共起ネットワークの真ん中に位置するのは、「学校」という語を中心にした大きな塊である。「学校」と関連する頻出語は「寄宿制」、「小学校」および「両親」となっている。また、一番下に位置する塊は「問題」、「解決」と「国家」であり、この 3 つの語は出現頻度が高く、関連性が極めて強い。相対的に「国家が問題を解決すべき」というコメントが多い。さらに右側の塊を見ると、上から「貧困」、「地域」と「資金」の 3 つの語は密接につながっている。「貧困地域に資金を多く支援するよう」などのコメントが多くなされている。

そのほか、出現頻度が多かった「モスク」は「建てる」、「子供」という語と緊密に関連している。コメントの中に、アイスボーイの所在地である昭通に数多くのモスクが建てられた事実に対する不満を表すコメントもたくさんあらわれた。また、右下の部分に「世論」、「インターネット」と「力」が緊密につながっている。そして、「社会」、「事情」と「ブームに仕立てる」は一つの塊になっている。

書き込まれたコメントは大きく分けると表 5

15) モスク：イスラム教の礼拝堂のことである

表4 「@人民日报」書き込みに付随するコメントにおける頻出語

順位	語	頻度	順位	語	頻度	順位	語	頻度
1	问题	32	11	地方	12	21	成长	8
2	钱	24	12	学生	12	22	事清	7
3	农村	21	13	政府	12	23	人民	7
4	国家	18	14	生活	12	24	初中	7
5	寄宿	18	15	儿童	11	25	力量	7
6	教育	18	16	家	10	26	媒体	7
7	清真寺	18	17	苦	10	27	家庭	7
8	社会	17	18	路	10	28	小孩	7
9	老师	17	19	网络	9	29	村	7
10	小学	14	20	大学	8	30	变化	7

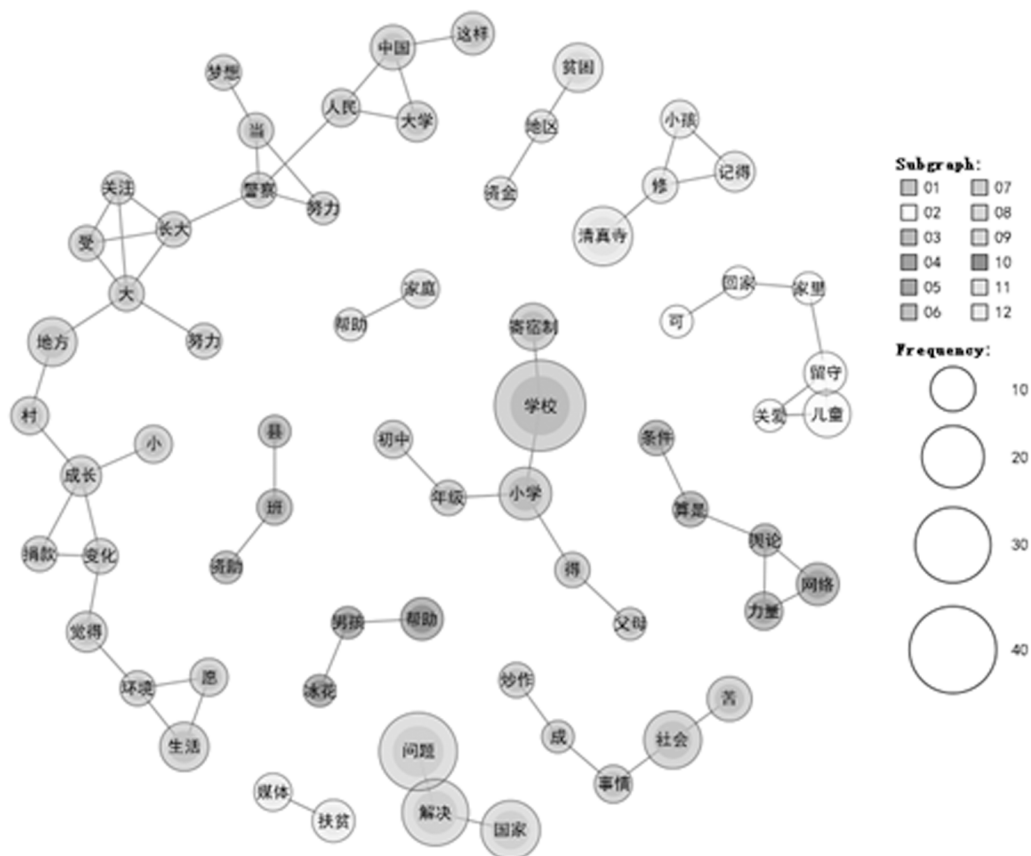


図4 「@人民日报」の書き込みに付随するコメントの共起ネットワーク

表5 「@人民日報」の書き込みに付随するコメントのカテゴリー

カテゴリー	
人民公安大学	アイスボーイの警察官になる夢
貧困地域における資金援助	国家における問題の解決
成長における社会寄付	数多く建てられたモスク
アイスボーイがブームに仕立てられる	インターネット世論の力
寄宿制学校	

のように、いくつかのカテゴリーに分けられる。ユーザーは主に「人民公安大学」、「貧困地域における資金援助」、「成長における社会寄付」、「アイスボーイがブームに仕立てられる」、「寄宿制学校」、「アイスボーイの警察官になる夢」、「国家における問題の解決」、「数多く建てられたモスク」、「インターネット世論の力」を議題にして、コメントをしている。

5.4 微博話題における書き込み数の推移と書き込みの主題における分析結果

言論統制が行われている中国社会でも、インターネットの著しい発展に伴い、コミュニケーション環境は大きく変わっている。独特な言論環境に置かれていた中国社会の中に、微博を代表する独自のソーシャルメディアが登場したことは、中国当局と民衆の間に立ち、両側の緊張を緩和するという調整機能を果たしている（車、2014）。一般民衆でもネット上の議論に積極的に参加し、自由に意見交換をするようになった。事件に関連した政府の態度に対する責任追及、政策の策定と意思決定に参加を求める声も多く見られる。情報統制と検閲が行われている中国において、情報の交流や議論が活発に行われている微博の言論空間は、限定的ながらも中国で数少ない開かれている公共圏と言えるかもしれない。このため、微博上で形成される世論に関する研究はさらに進められる必要がある。

続いて、アイスボーイ事件に関する「微博話題」における書き込みについて分析する。

「微博話題」は、微博における書き込みを様々

なキーワードによってカテゴリー別にまとめる機能である。ツイッター、インスタグラムなどのソーシャルメディアが提供した「ハッシュタグ」のサービスと同様、書き込みの内容に特定のキーワードを添付することで投稿がタグ化される。そのため、特定のキーワードで投稿を検索すると、趣味と関心が似たユーザーを見つけることができ、話題を共有することができる。「微博話題」では、注目度が高く、社会影響力の大きい微博話題が微博ホームページの目立つ位置に表示される。各微博話題ごとに、微博話題を管理する「司会」役がつけられている。微博話題の司会役を務めるユーザーは、その話題のホームページの編集や、投稿内容の並び替えなどができる。また、その話題の議論数が増えるほど、司会を務めたアカウントの影響力が高まる。司会になる前に審査が必要だが、申し込んだ微博話題における活躍度と影響力が高ければ審査に速やかにパスすることができる。また、人気話題は微博ホームページの目立つ位置に表示されるため、微博話題はネットユーザーの注目度を集め、ネット世論の喚起に影響を与える。

表6が示すように、アイスボーイ事件に関連する微博話題は7つ作られていた。事件が発生した後、「#冰花男孩刷屏」（アイスボーイの画像がスパム的に拡散する）、「#捐款30万冰花男孩得500」（アイスボーイへの寄付金30万元が実際には500元しか届かなかった）、「#冰花男孩天安门升旗」（アイスボーイが天安門国旗掲揚式に参加する）、「#冰花男孩北京圆梦」（アイスボーイが北京で夢を叶える）という4つの微博話題が頻繁に人気話題に表示され

ていた。書き込み数が1千回を超え、事件について最も議論された微博話題は3つあり、それは「アイスボーイへの寄付金30万元が実際には500元しか届かなかった」「アイスボーイが北京で夢を叶える」と「アイスボーイの一年」という3つの微博話題であった。

アイスボーイと関連する「微博話題」の中で、最も注目され、書き込み数が多かったのは「アイスボーイの一年」という微博話題である。この微博話題は7813.4万回以上に閲覧され、3979の書き込みがあった。この微博話題において、「@人民日報」は事件が発生した一年後に再びアイスボーイの最新情報を発信した。アイスボーイ事件に関して、党・政府機関の意思を代表する「@人民日報」は能動的にソーシャルメディアを活用し、事件の最新情報を素早く届け、市民の情報ニーズに応じていく努力をした。それによって、「@人民日報」はソーシャルメディア上のアジェンダ・セッティングを主導する力を保持し、世論を誘導することができたと思われる。

5.5 考察—政府による貧困地域への教育施策との関連性

経済発展が進むにつれて、中国においては、沿海部と内陸部の所得格差が拡大し続けている。この格差を是正するために、中国政府は2016年から次々と、貧困地域の教育の発展を促進する政策を打ち出した。

2016年6月15日に頒布した「中国国務院の中西部教育発展を促進する指導意見」（「2016指導意見」）は、中西部地域において、東部地域との社会格差を縮めるために、学校の教育レベルを全体的に改善すべきだという方針を打ち出した。学校の配置場所を最適化し、農村地域の学生に便利な通学環境を作るとしている。2020年までに「教育の近代化へ重要な一歩を踏み出す」という大きな目標が建てられ、中西部の学校の施設環境を完備し、教育の質の向上に向けて努力を重ねるとした¹⁶⁾。

その後、2017年10月18日に開催された中国共産党第19次全国代表大会で、習近平は農村民

表6 微博話題における書き込み数の推移および書き込みの主題

微博話題	開始時間	司会	閲覧数	書き込み数	OLアカウント
# 冰花男孩刷屏 (アイスボーイの画像がスパム的に拡散する)	18/01/09 15:00	@封面新聞	300万	721	@封面新聞
# 捐款30万 冰花男孩得500 (アイスボーイへの寄付金30万元が実際には500元しか届かなかった)	18/01/16 17:18	なし	8.5万	1912	@四川共青团 @怕妻 夫司机
# 冰花男孩天安门升旗 (アイスボーイが天安門国旗掲揚式に参加する)	18/01/20 12:19	なし	13.2万	496	@北京热点網羅
# 冰花男孩北京圆梦 (アイスボーイが北京で夢を叶える)	18/01/21 14:03	なし	225.2万	2078	@黄勝友
# 冰花男孩的一年 (アイスボーイの一年)	19/01/14 22:09	@人民日報	7813.4万	3979	@人民日報 @头条新聞 @人民網
# 冰花男孩这一年 (アイスボーイのこの一年)	19/01/05 09:04	@楽活昭通	87万	101	@觀察者網 @中国日報
# 冰花男孩出名一年后 (アイスボーイ事件から一年後)	19/01/14 10:39	なし	3.7万	10	@騰訊新聞出品 @昭通同城

新浪微博のデータを基に作成、2019年12月21日現在

徒の義務教育を重点政策にすることを打ち出し、「都市部と農村部の義務教育一体化発展を促す」¹⁷⁾と強調した。

しかし、農村における教育資源は極めて乏しいため、学校資源の調整や施設環境の整備の実行は厳しい状況に置かれている。そのため、2017年12月12日に、「2016指導意見」の中の諸政策を徹底的に推進するための「検査方法」¹⁸⁾が頒布された。

2018年1月に、アイスボーイ事件が発生し、事件が全国メディアで取り上げられた。ネット上では農村地域の貧困・教育問題をめぐる議論が再燃した。ネット上による農村地域の学校の設備不足に対して、「@人民日報」は1月31日に、「寄宿制学校の建設」が解決策になると指摘した。さらに、社会全体に対して農村寄宿制学校建設についての支持を求める姿勢を保持した。

事件後の2月27日に、中国国務院はさらに、深度貧困地域での教育および貧困の緩和に焦点を当て、2018年から2020年度に向けての新たな教育脱貧困方針¹⁹⁾を公表した。この方針では、3年以内に困難の克服に取り組み、深度貧困地域で「教育脱貧困」を目指したものとなっている。

国務院は2018年4月25日に「乡镇寄宿制学校」の建設を中心に据えて、新たな基礎教育の推進政策を打ち出した²⁰⁾。この政策は、農村部の児童・生徒が公平に教育を受ける権利を保証する内容となっており、2020年までに義務教育段階における都市部と農村部の間の障壁を取り除くことを目指している。

アイスボーイ事件が引き起こした議論は、こう

した一連の中国政府当局の政策の流れに関連しており、さらに、同事件が政策の加速化に寄与したと思われる。また、別の意味では、アイスボーイ事件が起きてネット世論が盛り上がったことを当局は無視できず、この事件の世論を巧みに誘導することによって、当局の政策を一般市民が支持してくれるようにマネジメントしたということも考えられる。その意味では、アイスボーイ事件発生以後のネット世論の高まりを、当局は素早くキャッチし、素早く対応し、政府批判が高まらないように次々と政策と方向性を打ち出して、逆に一般市民の支持と支援を獲得しようと試みることに成功した事例と言えるかもしれない。

第6章 結論と全体的考察

インターネット技術の発展は、市民が情報を収集し理解するための手段、方法を充実させた。これにより、政府の政策に意見を述べたり参加したりする人々の熱意が高まり、市民が議論できる公共圏がネット上に形成されるようになった。新たなコミュニケーションツールの登場と発展により、政府の政策に対する改善要求や市民社会の熟成へとつながってきている。

また、政府当局の管理にあるとはいえ、市民が公的な場で意見を発信できる環境ができたことで公共圏が発生し、個人もソーシャルメディアを通じて異議申し立てできるようになってきた。そのため、市民側から、当局とは距離を置いた議題を提起することが可能になった。このようなメディア環境に置かれた中国政府当局は、世論形成の主導権を保持するために、ソーシャルメディアにおけるアジェンダ・セッティング機能へ積極的に関与し始めてきたことは、極めて重要な意味を持つものと思われる。ラジオ、テレビ、新聞、雑誌という伝統的なマスメディアを完全な統制下に置きつつも、新しいソーシャルメディアに対しても、対応しようという中央政府の意思の表れが、今回のアイスボーイ事件の情報拡散過程の分析から見えてきた。

本論文は、2018年に注目を浴びたアイスボーイ

16) 『国务院报公厅关于加快中西部教育发展的指导意见』2016年6月

17) 『中国共产党第十九次全国代表大会報告』2017年10月

18) 『加快中西部教育发展工作督导评估监测报法』2017年12月

19) 『深度贫困地区教育脱贫攻坚实施方案(2018-2020年)』2018年2月

20) 『国务院报公厅关于全面加强乡村小规模学校和乡镇寄宿制学校建设的指导意见』2018年4月

イ事件に焦点を当て、事件後に新浪微博ではどのようなネット世論が形成され、また、その世論がどのように形成されたのかを分析した。その上で、「人民日報」の微博公式アカウントの発信内容とともに、ネット世論形成の過程に果たした役割を考察した。その結果、アイスボーイ事件における世論形成過程には以下の4点があることがわかった。

第1に、アイスボーイ事件に関する微博における情報拡散の中で、党機関紙である「人民日報」の微博公式アカウントが重要な役割を果たした。「@人民日報」が写真などを転載したことによって、アイスボーイ事件が爆発的に広がり、全中国の注目を浴びるようになった。「@人民日報」というマスメディアがソーシャルメディアを活用した典型的な例であり、情報拡散過程において大きな影響力を及ぼしたことがわかった。

つまり、最初は、地方の小学校教員がたまたまアップした写真だったのが、人民日報という政府の公式機関のマスメディアが取り上げたことによって、アイスボーイは、一気に中国全土のヒーローに変身を遂げていったのである。

アイスボーイ事件において、「@人民日報」は、ネットユーザーの議論に次々と情報を提供する姿勢を保持した。事件の最新情報を素早く市民に届け、市民の情報ニーズに応え続けたことが特徴的である。

もし、中国政府当局が、このアイスボーイ事件について、何の関心も示さずに放置したとしたら、ユーザー側から政府の政策に対する批判や意見が殺到した可能性がある。今回のアイスボーイの写真は、中国全土の共感を呼び、多くの人に農村での教育について問題意識を抱かせ、政府の不十分な政策を批判し、政府とは関係なく、市民が独自に、貧困の中で勉学に励んでいる農村地帯の子どもたちを救おうという運動が起きたかもしれない。

「@人民日報」は、その可能性について、いち早く気づき、自らが情報提供を行い、政府の政策によって、貧困農村地帯の子どもたちを救えるの

だという方向性を、一般ユーザーたちに示すことに成功した。ネット世論に敏感に反応し、ユーザーからの批判につながらないように誘導し、政府の政策に賛同してもらうことに成功した典型的な事例ではないだろうか。

第2に、アイスボーイ事件は、中国政府当局の貧困農村地域への教育施策と合致するという点で、「@人民日報」が積極的に取り上げたという背景がある。結果的に、政府当局が、2018年2月に新しい教育脱貧困方針を、さらに同年4月の「乡镇寄宿制学校」の建設を中心とする基礎教育の推進政策を打ち出すことにつながっていった。

また、アイスボーイ事件において、中国政府当局は「@人民日報」の発信を通じて、政策の1つである農村寄宿制学校建設への支持を求めている。今回のアイスボーイ事件は、「@人民日報」がソーシャルメディアにおけるアジェンダ・セッティングを主導する力を有することを示した事例であると考えられる。

第3に、アイスボーイ事件において、ユーザーたちは主に、「人民公安大学」、「貧困地域における資金援助」、「成長における社会寄付」、「アイスボーイがブームに仕立てられる」、「寄宿制学校」、「アイスボーイの警察官になる夢」、「国家における問題の解決」、「数多く建てられたモスク」、「インターネット世論の力」などをテーマに、議論を交わした。アイスボーイについて関心や同情を持つとともに、一方で、貧困地域に関する政策をめぐる議論が沸騰した。その中に、「アイスボーイがメディアによってブームに仕立てられた」、「多くのモスクが建てられたのに、学校の設備は不完備である」など、マスメディアや政府に対する批判が数多く書き込まれたことも事実である。

第4に、「@人民日報」には、中国共産党の機関紙媒体としての限界も存在している。ネットユーザーの議論が活発化する中、他のマスメディアが報道した寄付金に関する疑惑や政府の批判につながる話題には全く触れていない。また、「@人民日報」は微博の書き込みおよびミニ社説を通

して、アイスボーイを人々に感動を与えた人物として高く評価し、ネット世論をポジティブな方向へ誘導する傾向が見られた。

情報伝達の限界に関しては、「@人民日報」は機関紙という独自性を持つため、他の一般のメディアによる発信を調査した上で、さらに比較研究する必要がある。また、ソーシャルメディアにおける新たなアジェンダ・セッティングの検討は、多くのネット世論事件の事例を収集し、さらなる検証が必要となる。これらの問題については、今後の課題とし、検討していくことにしたい。

参考文献

- 陳雅賽 (2017) : 『中国メディアの変容・ネット社会化が迫る報道の変革』 早稲田大学出版部。
- 崔蘊芳 (2012) : 『网络舆论形成机制研究』 中国传媒大学出版社。
- 刘毅 (2006) : 『内容分析法在网络舆情信息分析中的应用』 天津大学学报 (社会科学版)。
- 川村範行 (2011) : 「現代中国の社会変動とメディア政策に関する分析及び考察：群体性事件とネット世論の影響力」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』 43, 25-48。
- 劉亜菲 (2016) : 「中国ネット世論形成における「党・政府主導型オピニオンリーダー」の発信行動と役割：『@人民日報』を例として」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』 22, 37-55。
- 李光鎬・鈴木万希枝 (2013) : 「メディア環境の変化とニュース普及過程の変容」『メディア・コミュニケーション』 63, 63-75。
- 陳雅賽 (2015) : 「7・23温州列車脱線事故における中国ネット世論の形成—新浪ニュースサイト、新浪微博、天涯揭示板の分析を通じて」『マス・コミュニケーション研究』 86, 123-142。
- 陳雅賽 (2016) : 「8・12天津爆発事故における中国ネット世論の形成—新浪微博の分析を通じて」『社会情報学』 5 (1), 19-37。
- 劉亜菲 (2014) : 「中国ネット世論形成における伝統メディアとインターネットの共働についての考察：『労働教養制度の改革・撤廃』を事例として」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』 18, 115-36。
- 李顺德 (2013) : 「媒体融合時代の舆论形成问题研究——公共领域的舆论博弈」『复旦大学博士論文』。
- 張寧 (2003) : 「中国はどう語られてきたか：三大紙の中国報道における報道フレームとその規定要素に関する社会学的研究」『筑波大学博士 (社会学) 学位論文』。
- 山田賢一 (2012) : 「『ブログジャーナリスト』を通じて見る中国メディアの今」『放送研究と調査』 62 (10), 30-41, 2012-10。
- 越中康治, 高田淑子 (2015) : 「テキストマイニングによる授業評価アンケートの分析：共起ネットワークによる自由記述の可視化の試み」『宮城教育大学情報処理センター研究紀要』 22, 67-74。
- 葛旭 (2018) : 「突発事故発生時における中国の地方『政務微博』の役割と限界／8・12天津港爆発事故での対応を事例として」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』 vol 27, 17-32。
- 遠藤薫 (2016) : 『ソーシャルメディアと世論の形成』 東京電機大学出版局。
- Zheng, Y., Technological empowerment: The Internet, state, and society in China. Stanford University Press, 2007.
- 周洲, 松野良一 (2014) : 「『新浪微博』の登場はどのように中国の社会問題を可視化させているか」『総合政策研究』 22, 87-107。
- 車愛順 (2014) : 「中国社会におけるインターネット公共圏：マイクロブログ・ウェイボーを中心に」『社会システム研究』 17, 145-162。
- 杨亮 (2018) : 「网络正能量集聚与扩散的路径与舆情分析——以“冰花男孩”事件为例」『新闻世界』 02, 49-52。
- 周葆华 (2011) : 「突发公共事件中的媒体接触，公众参与与政治效能——以“厦门PX事件”为例的经验研究」『开放闻代』 05, 123-140。
- 章蓉 (2017) : 「コレクティブ・ジャーナリズム—中国に見るネットメディアの新たな可能性—」新聞通信調査会。
- 阿部遼太郎 (2013) : 『中国におけるインターネット発展と自治体情報発信の展望』自治体国際化協会 CLAIR report. 383
- (<http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8266335/www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/383.pdf>)